

Management view

中・大規模病院など5施設

「女性医師にやさしい病院評価」に早くも受審申請

NPO法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」



NPO法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会（略称＝イージェイネット）」は4日、東京都内でシンポジウムを開催した。同会の瀧野敏子代表理事はシンポジウム終了後に本紙の取材に応じ、5月から受け付けを開始した「女性医師にやさしい病院評価」に早くも5病院から受審申し込みがあったことを明らかにした。問い合わせも含めるとその数は20病院に上るといふ。瀧野代表理事は、「大々的な宣伝をしていないにもかかわらず、この数は予想以上に多い。皆さんの女性医師に対する認識が高まっていることの現れではないか」としている。

医師全体に占める女性医師の割合は14.3%（2004年）に上り、また05年度の全国の医学部卒業生の33.5%が女性を占めるなど、その数は増加傾向にある。ただその分、出産・育児、介護などのために離職、休職する女性医師の動きが近年目立ち始め、女性医師が多い小児科や産科、最近では精神科などでも人材不足が問題となっている。

しかし、一方の女性医師たちは仕事を続けたくても、家庭と両立するための労働環境が配慮されていない悩みを抱えている。離職・休職後に職場復帰を望んでも育児などの支援体制や、医療技術を維持するための再教育システム、再就職支援のルートが確立されていないなどの理由で、復帰が困難な状況にある。

代替要員や
復帰支援プログラムを審査

こうした現状の打開策として、「イージェイネット」が5月に立ち

上げたのが「女性医師にやさしい病院」の認定評価。育児や介護のサポート、キャリアアップ支援など、女性医師に対して積極的な支援を行っている病院を認定しようというもの。

主な審査項目は、育児・介護全般における代替要員対策の有無や物理的環境の整備状況、保育対策の実施状況、職場復帰支援プログラムの内容、キャリア形成にかかわる専門医・認定育成プログラムの有無などを書面審査を通じて行うほか、病院長や医療現場責任者からじかに経営方針なども確認する。

審査委員には、女性の労働環境に詳しい弁護士や医療経営関係者のほか、監査法人、医療系ジャーナリスト、学識経験者、社会保険労務士などを交えている。

現在までに受審申し込みをしているのは5病院。中・大規模病院が名を連ねる。審査期間は2カ月程度で、早ければ7月初旬に開かれる評価認定で初の認定病院が誕生する見込み。瀧野代表理事は、「今後の経

営を考えていく上で女性医師の就労継続支援は必須。ここで取り組みを始めないと、女性医師の問題だけでなく病院の経営環境そのものがさらに厳しいものになる」としている。

経営方針と就労体制の
見直しを

同日に開かれたパネルディスカッション「女性医師キャリアアップ支援システム作りの現状と課題」では、女性医師の就労継続支援に求められる経営面での取り組みをめぐって議論が交わされた。

同会の理事を務める田附興風会医学研究所北野病院の武曾恵理副所長は、院内で「勤務医の就労形態見直しの会」を立ち上げ、医師も事務に介入して女性医師のサポート強化に

取り組んでいることを説明し、「院内での財政がうまく機能していないことが問題。管理者を含めた意識改革が必要」と指摘した。

東京女子医大の川上順子教授は、大学として女性医師の復職支援を行う「再教育センター」の立ち上げを検討していることを説明。現在、理事会で調整を進めており、実現すれば今夏にも立ち上げる意向を示した。

厚生労働省医政局の宮本哲也課長補佐は、「今や、女性医師に限らず医師1人1人が貴重なマンパワー。こういう時勢で難しいとは思いますが、それぞれのスタイルに合わせた勤務体制を考えていかなくてはならない」と、男性医師も含めた医師全体の就労体制を再構築する必要性を強調した。

■ 評価項目（抜粋）

方針・体制	病院長ヒアリング
	医療現場責任者
	病院事務・人事責任者
	病院内での両立支援に向けての体制作り
育児・介護全般	代替要員（医師）対策の有無・内容の確認
	女性医師の育児・介護をサポートする物理的環境整備の状況
育児保育	育児（幼児）対策の実施状況
	3歳未満の育児への配慮
介護支援	介護対策の実施状況
復職支援	女性医師退職者に対するフォロー
	育児・介護が理由で病院を退職した女性医師に対する将来の職場復帰に向けての対応
	退職女性医師の再雇用
	復職支援プログラムの内容
キャリア形成支援	女性医師キャリア形成にかかわる専門医・認定育成プログラムの有無
啓蒙・PR	
その他	セクシャル・ハラスメント対策 等